

平成13年度 最上川水系流域委員会村山地区・置賜地区小委員会
(第7回)の議事概要

1. 開催日時

平成13年3月14日(水) 10:30~11:30

2. 場 所

パレスグランデール(山形市荒楯町1-17-40)

3. 出席者(15名)

村山地区委員:前川座長(村山・置賜)、五百川委員、奥山委員(村山・置賜)、高橋委員、
仲野委員、村形委員、横山委員、吉野委員、渡辺委員
置賜地区委員:黒澤委員、小口委員、齋藤(吾一)委員、佐藤委員、竹田委員、星委員

地 整:山形工事事務所長、最上川ダム統合管理事務所長

山形県:村山総合支庁建設部長、置賜総合支庁建設部長

一般傍聴者:6名

4. 議 題

- (1)第8回最上川水系流域委員会報告(大臣管理区間)
- (2)最上川水系河川整備計画(案) 大臣管理区間
- (3)第8回最上川水系流域委員会報告(知事管理区間)
- (4)最上川水系河川整備計画(案) 知事管理区間

5. 記者発表等

- 平成14年3月 5日(火) 山形工事事務所ホームページより傍聴希望者を募集
3月 5日(火) 山形県河川課から委員会開催及び傍聴希望のチラシを流城市町
村機関へ掲示依頼
3月 5日(火) 山形県庁記者クラブ(16社)、専門紙(4社)に小委員会開催
投げ込み
3月14日(木) 小委員会取材 (株)建設新聞社

6. 審議結果

- (1)最上川水系河川整備計画(案) 大臣管理区間
事務局より河川整備計画(案)に対して、原案からの変更点について説明を行い、整備
計画(案)全般について審議して頂いた。(資料1, 2)

○P15:1) 動植物環境の記述の中、13行目「レッドデータブック等による貴重種や天然記念物等の動植物が生息、生育している」と①植物6行目「注目すべき種として、環境庁レッドデータブックにおいて絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されているタコノアシ、…」とあるが、「等」がつく・つかないことに何らかの意味はあるのか。

○貴重種の選定には、国・県の文献が様々である。個別種について、選定理由を明確にし、貴重種全般の表現に「等」を用いるのは意味がある。

○P14:2) 水需要の動向と課題で村山・置賜地区の農業用水がこれから大きく減少、庄内・最上では微増とあるが、その根拠は何か。

また、農業者の実感として、生産調整のため耕地面積が減るのは山手であり、最上川からの利水量には、そんなに変化しないと考えている。

A: やまがた21世紀ウォータープランを参考としております。ウォータープランの記述の内容に即して引用していますが、今一度確認します。

(2) 最上川水系河川整備計画(案) 知事管理区間

事務局より河川整備計画(案)に対して、原案からの変更点について説明を行い、整備計画(案)全般について審議して頂いた。(資料3, 4, 5)

○P9:2) 河川の水質の記述で「他事業で監視しており水質の改善が図られつつある。」とあるが、あまり改善されていないと思うので「監視しながら水質の改善を目指している。」としてはどうか。

A: 廃止鉱山対策で事業を行っており、現場を見ると魚も上っていますので「図られつつ」という表現にしたが、水質について詳しく教えていただき、表現について詰めたと思います。